

構想検討会議(R8. 1. 20)の「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(案)からの修正点

頁	ご意見	対応案
表紙	これまで、「こどもまんなか」の視点を大事に議論してきた。高校教育には人材育成の側面もあるが、大切なのは子どもがこれからの未来を切り拓いて行く大事な時期に、子どもや保護者に選ばれる学校をつくっていくこと。そうした姿勢を「はじめに」などで示しておけばよい。	表紙のサブタイトル部分に、『こどもまんなか』の視点で考える」を追加
0	4段落目 「人口減少社会を迎える中でも」とあるが、すでに迎えており、表現を変更すべき。	「人口減少社会において」に修正
1	リード文2つ目 「多様な教育ニーズへの対応も必要になるなど」とあるが、すでにニーズはあり、表現を変更すべき。	「多様な教育ニーズへの対応など」に修正
14	各期の姿の図を見たとき、学校の数だけが減っていくという印象を受けるので、各期の生徒数でもよいが、どのくらい減っていくのか一緒に記載しておけば、理解してもらえるのではないか。	図の右端(全県の学校数横)に、各期の募集定員(推計)を追記
16	中高一貫教育校の選抜方法の検討には、中学校への入学を考えれば小学校関係者も協議対象に入れておくべき。	「小学校・中学校・高校等の関係者」に修正

「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(素案)からの主な修正点

主な修正点

- ㊦昨年10月の総合教育会議で決定した構想の進め方(別紙)に基づいた内容等の見直しなど
- ㊦県立高校を取り巻く状況など「基本方針」に盛り込んでいた要素を網羅
- ㊦その他、国の動きや県議会での議論等を踏まえた見直し

頁	修正点(項目)	内 容
はじめに	・実施方針の位置づけ	㊦「実施方針」は構想の方向性を示す「羅針盤」と位置付け、必要な場合は見直しを行うことなどを記載 ㊦国の「高校改革に関するグランドデザイン」の動きを追記
1	・県立高校を取り巻く状況	㊦「基本方針」の要素を追加
2	・構想の基本とする考え方	㊦構想の基本とする考え方を整理(構想の進め方を追記)
5～6	・職業系専門学科	㊦関係者の意見をお聞きし、職業系専門学科について検討した内容を追記
7～8	・大規模校、中規模校の整備方法等	㊦「大規模校」は既存施設活用も検討すること、「中規模校」は機能分担(複数キャンパス制)も検討することを追記
11～12	・新時代HSの類型	㊦構成を変更 ㊦未来探求ハイスクールが小規模となる可能性があることを記載
13	・各期の方向性	㊦第1期の検討と並行して、第2期以降に設置する学校についても必要な検討を行い、エリアごとの学校の配置数などを示すことを追記
15	・令和8年度の県立高校(全日制)の設置状況	㊦現在の県立高校の設置や募集定員の状況を追加
16～18	・項目ごとの流れ	㊦「基本方針」の要素を追加 ㊦各期の設置方針公表後に同窓会の取扱いについて関係者の意見を聞くことを記載
19～20	・第1期校等の流れ	㊦「設置方針」、「設置計画」等の流れを整理

「新時代とやまハイスクール構想」の進め方について

「新時代とやまハイスクール構想」については、これまでいただいたご意見を参考に、今月の構想検討会議で議論した結果を踏まえ、次のとおり整理のうえ、着実に進めていくこととする。

項目	進め方
(1) 構想の基本的な方針	<ul style="list-style-type: none"> 構想は、「こどもまんなか」の視点から、以下を基本として進めていく。 <ul style="list-style-type: none"> ① 基本目標である「新時代に適応し、未来を拓く人材の育成」の実現を目指すこと ② 少子化が進む中でも、生徒に多様な選択肢を提供できるよう、特色ある「新時代ハイスクール」を県内にバランスよく配置すること ③ 実施方針（素案）で示した令和20年度までに「目指す姿」に向け、3期に分けて段階的に再編等を進めていくこと
(2) 構想の「実施方針」および「各期の設置方針」の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> 「実施方針」は、構想の方向性を示す「羅針盤」として位置づけ、策定後の社会情勢の変化などを踏まえ、必要な場合は一部見直しを行いつつ、常に、上記(1)の基本的な方針に基づき、構想を着実に推進する。 「各期の設置方針」は、「実施方針」に基づき、具体的な対象校を示すものとし、3期ごとに、「新時代ハイスクール」の教育内容や設置に必要な再構築を検討した上で提示する。
(3) 「実施方針」の内容等の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 以下を「実施方針」に記載する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 第1期の議論と並行して、第2期以降に設置する学校についても必要な検討を行うこと ② 既存施設の活用等の観点から、複数キャンパス制の導入などにより、中規模校の機能分担を図ることを検討すること ③ 大規模校については、整備方法として、「新築」のほか、「既存施設の活用」も含めて検討を進めること <u>今後、関係者の意見をお聞きし、農業・工業・商業高校の将来像や職業系専門学科の開設の方向性などについて検討を行い、その結果を実施方針に追記する。</u>
(4) 「実施方針」の取りまとめ時期および第1期校の設置時期	<ul style="list-style-type: none"> <u>「実施方針」は、来年1月頃までに取りまとめる。</u> 「実施方針」を取りまとめた後、第1期に関する検討を行い、令和8年度前半を目途に「第1期設置方針」として公表することを目指す。 これに伴い、第1期校の設置は令和11年度を目指すこととする。

(案)

「新時代とやまハイスクール構想」実施方針

『こどもまんなか』の視点で考える

学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり

令和8年1月 富山県総合教育会議

はじめに

科学技術やグローバル化の進展、人口減少の進行など社会が大きく変化する中において、県立高校のあり方は、大きな変わり目を迎えている。このため、令和3年度以降、様々な方法でお聞きしてきたご意見も踏まえながら、将来の県立高校に必要と考えられる教育内容などについて議論を重ね、令和7年3月に「新時代とやまハイスクール構想」の「基本方針」を取りまとめた。

令和7年度は、「基本方針」を踏まえ、新たに検討組織を立ち上げ、さらに幅広いご意見をお聞きしながら検討を進め、このたび、その結果を「実施方針」として取りまとめた。同時期に国から示された、令和22（2040）年に向けた「高校教育改革に関するグランドデザイン2040」は、本県の構想と軌を一にするものであり、構想の推進を強く後押しするものである。

この「実施方針」は、構想の方向性を示す「羅針盤」として位置付けるものであり、今後は、国のグランドデザインも踏まえながら、社会情勢の変化や今後の中学校卒業予定者数の状況などに応じて、必要な場合は見直しを行いつつ、構想を着実に推進する。

誰も経験したことがない人口減少社会において、本県のこれまでの教育実績を活かしつつ、常に「こどもまんなか」の視点から県立高校に何が必要かを考え、高校教育のさらなる充実に努めていくこととする。

目 次

I. 県立高校を取り巻く状況	・ ・ ・ 1
II. 令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿	・ ・ ・ 2
1. 基本目標	
2. 基本とする考え方	
3. 教育内容	
4. 学校規模別の設置方針	
5. 令和 20 年度における県立高校の学校規模のイメージ	
6. 様々なタイプの学校・学科等	
7. 新時代HSの類型	
III. 「目指す姿」から考える「各期の姿」	・ ・ ・ 13
1. 各期の方向性	
2. 各期の姿	
(参考) 令和 7 年度の県立高校(全日制)の設置状況	
IV. 今後の進め方	・ ・ ・ 16
1. 項目ごとの流れ	
2. 第 1 期校等の流れ	
「新時代とやまハイスクール構想」実施方針に関する検討経緯	・ ・ ・ 21

I. 県立高校を取り巻く状況

- これまで富山県では、豊かな自然や教育熱心な県民性、熱意と使命感を持つ教員など、教育を支える恵まれた環境の中、児童・生徒の生きる力を育むため、個性や能力を伸ばす熱心な教育活動が展開され、「教育県」として高く評価されてきた。
- こうした中、近年、科学技術やグローバル化の進展、人口減少の進行など社会は大きく変化してきており、また、生徒の興味・関心や進路希望の多様化、不登校生徒や外国籍生徒等の多様な教育ニーズへの対応など、教育を取り巻く環境は今後の予測が困難な「新時代」を迎えたと言える。
- この「新時代」においても、義務教育と社会をつなぎ、社会を知る場である高校で、生徒が明るい未来を描き、夢を叶えることができるよう、県立高校におけるこれまでの教育実績を活かしながら、高校教育のさらなる充実を図っていく必要がある。

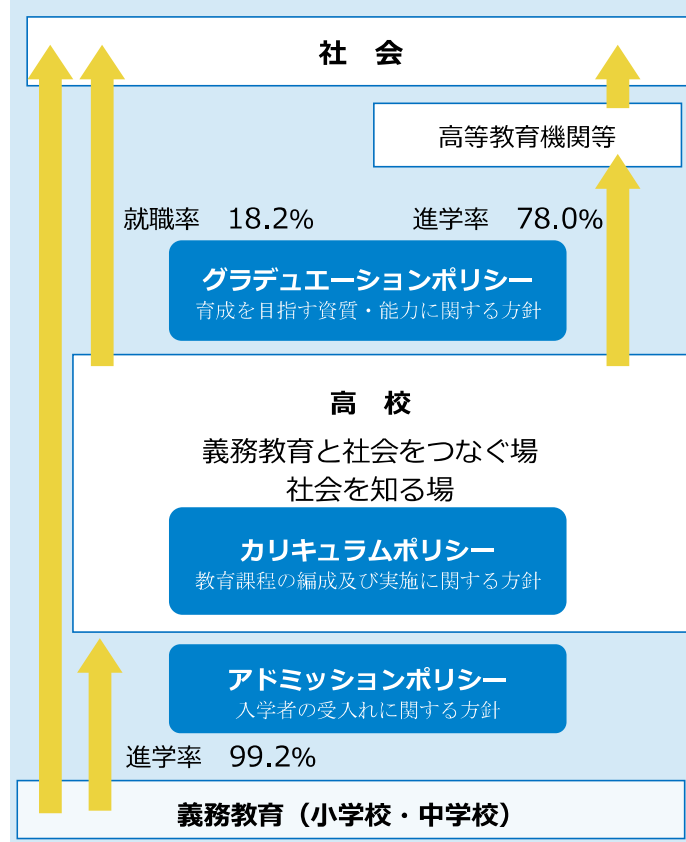
社会の変化

科学技術やグローバル化の進展、人口減少の進行等

生徒の変化

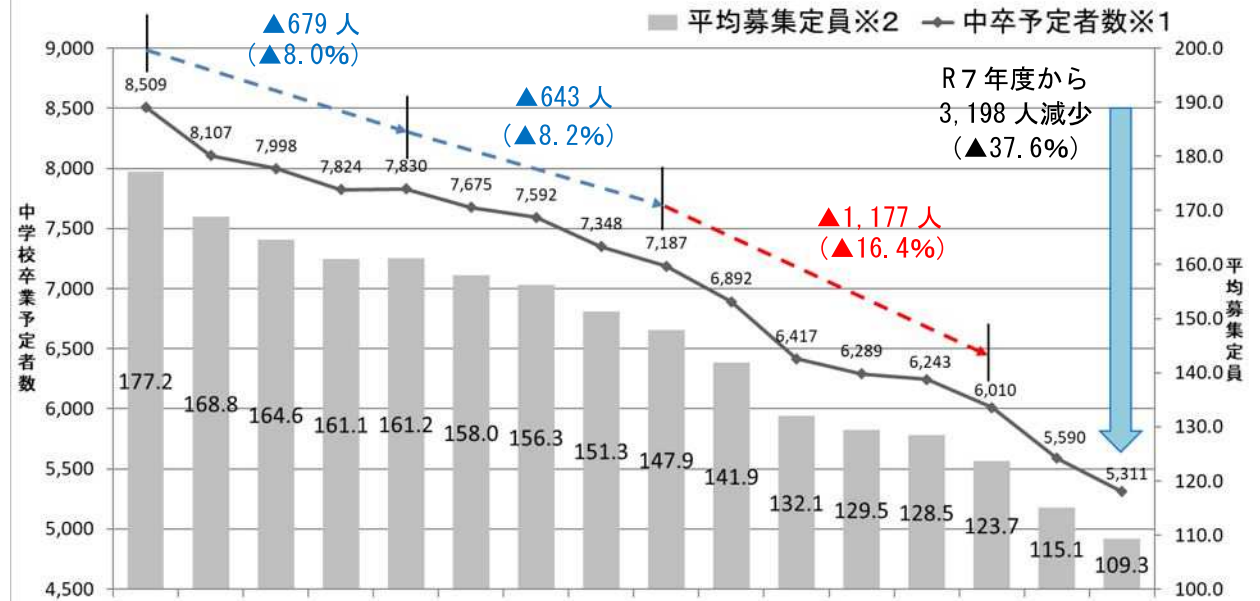
興味・関心、進路希望の多様化
多様な教育ニーズへの対応（不登校生徒、外国籍生徒、特別支援教育など）

《高校の位置づけ》



※進学率、就職率は令和7年度学校基本調査によるもの

《今後の中学校卒業予定者数の推移》



高校入学年度	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22
R7年度在籍学年	高1	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳

※1 R7～R16は学校基本調査(R7.5.1)の在籍者数、R17～R22は人口移動調査(R7.10.1)に基づく推定値

※2 令和9年度以降の募集定員は中学校卒業予定者数の70%と仮定し、平均募集定員は、全日制34校として算出

Ⅱ. 令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿

1. 基本目標

- ・社会や生徒を取り巻く状況を踏まえ、令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の基本目標を次のとおりとする。
- ・この基本目標を実現するため、現在の全ての県立高校(全日制)を再構築して新たな学校を設置する「新時代とやまハイスクール構想」(以下「構想」という。)を進める。

県立高校の基本目標

◎新時代に適応し、未来を拓く人材の育成

予測困難な時代において、生徒が社会の変化やニーズを的確に読み取り、様々な人々と協働して社会参画できるよう、個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせながら、生徒一人ひとりの生きる力とレジリエンスを育み、「ウェルビーイング」の向上を図る。

全ての県立高校(全日制)を再構築し

新しい学校を設置する

**新時代とやま
ハイスクール構想**

2. 基本とする考え方

(1) 新時代とやまハイスクール(「新時代HS」)の設置

- ・新時代HSは、基本目標の実現に必要と考えられる教育内容を組み合わせた大規模・中規模・小規模の学校で構成する。
- ・少子化が進む中においても、生徒に多様な選択肢を提供できるよう、それぞれ特色のある新時代HSを県内にバランスよく配置し、全ての生徒にとって、「学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり」を推進する。

教育内容
普通系学科
職業系専門学科
総合学科



学校規模
大規模校
中規模校
小規模校



**バランスの
取れた配置**



**新時代とやま
ハイスクール
(新時代HS)**

追加
(ア)

(2) 構想の進め方

- ① 将来(令和 20 年度)の県立高校の「目指す姿」(教育内容・学校規模・学校類型など)を描き、
- ② バックキャスティングで「各期の姿」を検討し、
- ③ 3 期に分けて「再編等」の取組みを推進していく。

バックキャスティングで検討

①R20 年度の県立高校の「目指す姿」を描く

②10 年程度前の姿

②5 年程度前の姿

③

第 1 期

第 2 期

第 3 期

3. 教育内容

- ・新時代HSにおける教育内容は、以下のとおりとし、国の「高校教育改革に関するグランドデザイン 2040」で示された3つの視点「①不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長」、「②我が国の経済・社会の発展を支える人材育成」、「③一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保」も踏まえ、特色ある取組みを進めていく。

(1) 普通系学科

- ・普通系学科は、「スタンダード」を全てに共通する教育の基本と位置付け、次の教育内容で構成する。

教育内容	ねらい	特色ある取組み（例）
スタンダード	生徒の主体的な学びを通して、進路意識を醸成するとともに、社会課題への関心を高め、未来を拓く人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数・習熟度別授業を実施し、生徒の理解促進とより発展的な学びを提供 ・卒業に必要な修得単位数を見直し、生徒自身の心理的・時間的な余裕を確保し、生徒の主体的な取組みを推進 ・高等教育機関への進学に重点を置いた科目を開設 ・文理の区分にとらわれずに、柔軟に科目選択できる教育課程を編成（ex. 文系でも数学Ⅲまで選択できるような仕組みを検討） ・探究活動を充実し、キャリア教育を推進
STEAM	学術的な見識と豊かな感性を兼ね備え、これからの社会を創造できる人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動に係る授業の単位数を増やし、活動の基本となる考えるための技法の習得に加え、発展的な学びの時間を確保 ・大学や企業と連携した探究活動を実施する「富山×理数×ものづくりラボ（仮称）」を開設し、テーマに関連する大学研究室の学生や教授による定期的な指導機会を設け、大学での学びを先取り ・英語によるアカデミック講演会（各種研究分野）を開催 ・大学入学者選抜における総合型選抜に対応した教育課程を編成 ・県独自の教科等横断型科目「とやま学（仮称）」を開設
グローバル	ふるさとや日本のことを深く理解した上で、外国の異なる文化や多様な価値観を尊重でき、高いコミュニケーション力を備えた国内外で活躍できる人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を通して、我が国の自然や歴史・文化について学びを深め、郷土への愛着や誇りを醸成 【英語力の向上・国際感覚の醸成】 <ul style="list-style-type: none"> ・ALT（外国語指導助手）の複数配置 ・短期海外研修の実施 ・海外の連携校とのオンライン交流 ・英語以外の外国語の選択履修（希望者） 【海外進学も含めた進路選択（国際バカロレア認定校等）】 <ul style="list-style-type: none"> ・外国人教師（講師）の配置 ・海外の学校との英語でのオンライン探究活動発表会の実施 ・英語による数学や理科などの授業の実施 ・交換留学制度の推進（短期留学を授業の一環として実施など）

	未来創造	i	運動や健康づくりの実践・理解を通して、将来のスポーツ振興に貢献するアスリートやヘルスケア産業を担う人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い教員や外部指導員による「深い学び」を実践 ・生徒の運営による地域公開イベントを開催（ダンスなど） ・専門科目の知識・技能を活かしたスポーツに関する探究活動や課題解決を推進 ・部活動の時間を十分に確保できるような柔軟な教育課程を編成
		ii	芸術文化の幅広い創作活動を通して、豊かな創造性と表現力を持つ芸術家やクリエイター（音楽・映像・アニメ・デザインなど）人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い教員や外部指導員による「深い学び」を実践 ・生徒の運営による地域公開イベントを開催（演劇・音楽など） ・専門科目の知識・技能を活かした芸術文化に関する探究活動や課題解決を推進 ・部活動の時間を十分に確保できるような柔軟な教育課程を編成
		iii	データの分析・解析や情報技術の活用を通して、課題解決能力と新しい価値観を生み出す力を有するデジタル人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・県内大学等と連携したプログラミングやデータ分析に関する学習を実施 ・データサイエンスやプログラミングの実践的な学習を充実 ・eスポーツを通じたICTリテラシーや問題解決能力を育成
		iv	「商業科」の学びを取り入れ、ビジネスに関する基礎的な知識や技術を身に付け、多角的な視点から新しいビジネスを創造できる人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・情報や会計、ビジネスに関する選択科目を開設 ・専門機関と連携した金融・経済に関する教育プログラムを実施 ・商品開発やアントレプレナーシップの育成など社会と結びついた実践的な学習を充実
		v	「家庭科」の学びを取り入れ、福祉マインドを持ち、よりよい社会づくりのために、主体的に地域の人々の生活を支える人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・食物、被服、保育、福祉に関する基礎的な選択科目を開設 ・保育所、福祉施設等での実習を充実 ・地域の人々との交流や他校の専門学科と連携し、地域課題を解決する取組みを推進
	地域共創		ふるさとに誇りと愛着を持ち、様々な関係者と協働しながら、地域づくりを担うことができる人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の企業や自治体の抱える課題の解決を図る探究活動を推進 ・地域の特性と高校生の発想を掛け合わせた事業を提案 ・特色ある部活動（スポーツ、郷土芸能など）を充実 ・学校と地域住民等が協働して学校の運営に取り組むコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入
	エンパワーメント		個に応じた学びを通して、自分自身の強みを発見し、将来の生き方を主体的に決定できる人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制による柔軟な教育課程により、生徒の「余白の時間」を創出し、地域等と連携した学校外における多様な体験活動（地域行事への参加、就業体験など）を実施 ・学校設定科目の工夫により「基礎学力の定着」や「発展的な学び」など多様な学習ニーズに対応 ・外国人生徒を対象とした「通級による指導」による日本語学習を実施

(2) 職業系専門学科

- ・職業系専門学科は、次の方向性で検討する。
- ・また、今後の各学科の定員設定については、学校の再構築の状況を踏まえながら、現在の定員数と定員割合、本県の産業・就業構造や生徒の志願状況などを勘案しながら決定していくこととし、右記のいずれかの方法で新時代HSに開設する。

一部修正 (ア)

- ①職業系専門学科からなる学校を設置
- ②普通系学科と併設する職業系専門学科を開設
- ③普通系学科・総合学科のコースや選択科目を開設

現在の学科	学科の方向性	開設方法		
		①	②	③
農業科	○安定的な食糧生産や新たな時代の農業に対応できる人材を育成 <ul style="list-style-type: none"> ・A I や I o T の利活用、スマート農業の導入、環境への配慮など、新たな時代の農業に向けた実習 ・地域の企業等と連携した農業経営のグローバル化や法人化、6次産業化等に関する学習 ・生産技術の習得に加え、農業をビジネスとして捉え、企業が行う経営プロセスを体験できるカリキュラムの設定 	○	○	○
水産科	○水産を取り巻く状況の変化に対応できる人材を育成 <ul style="list-style-type: none"> ・水産物の世界的な需要の変化や資源管理、持続可能な海洋利用など、環境保全型の水産業に関する課題についての探究活動 ・地域の企業等と連携した6次産業化や関連産業等に関する実習 		○	○
工業科	○地域産業界と連携した実践的な就業体験も取り入れた「ものづくり県」を支える人材を育成 <ul style="list-style-type: none"> ・学校では基本的な知識や技能を学ぶとともに、授業の一環として企業で実際に仕事をしながら技能を身につけるデュアルシステムの導入 ・新たなニーズ(デジタルものづくり、工業デザイン、アニメーション、防災・社会基盤など)に対応した学習 ・高等教育機関等への進学に対応できるよう、工業の専門科目以外の共通教科を多く履修する教育課程の編成 	○	○	○
商業科	○課題設定・分析・解決力を身に付け、これからのビジネスを支え、創造できる人材を育成 <ul style="list-style-type: none"> ・簿記や情報処理等の技能に加え、グローバルな視点やデジタル活用スキルの習得 ・商業の各分野について知識を相互に関連付けてより深く理解し、体系的・系統的に学べるカリキュラムの設定 ・(模擬)株式会社等の運営 	○	○	○
家庭科	○食物、被服、保育、福祉などの専門的な知識・技術を身に付け、主体的に社会貢献できる人材を育成 <ul style="list-style-type: none"> ・食物、被服、保育、福祉に関する実習や調査、演習などの実践的・体験的な学習 ・持続可能な消費生活・環境に関するカリキュラムの充実 ・各分野のプロ講師による特別授業 		○	○
看護科	○人々の健康増進を図り、地域や社会の保健・医療・福祉を支える人材を育成 <ul style="list-style-type: none"> ・最新の医療教材を用いた実習の充実による看護実践能力の育成 ・多様な実習先における経験を通したコミュニケーション能力や豊かな人間性の育成 		○	
福祉科	○豊かな人間性と高い専門性を備えた地域の福祉を支える人材を育成 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉ニーズの高度化と多様化に対応できるカリキュラムの設定 ・福祉用具や介護ロボット等を含む福祉機器に関する学習 ・多職種協働やチームケアを一層意識した課題解決型学習の充実 		○	

一部追加 (㊦)

- ・職業系専門学科単独校の将来像については、次のことを基本とし、具体的な学校づくりの中で、今後の社会の変化やニーズを踏まえながら、それぞれの高校や学科に何が求められるかを考慮し、検討を進める。

現在の学校	今後の教育内容	再構築の方向性
農業科単独校	これまで行われてきた特色ある教育を継承しつつ、スマート農業技術や環境への配慮など、時代の要請に応えることができる教育内容とする。	近年の志願者数の減少を踏まえ、公共交通機関の利便性が高く通学しやすい他の県立高校等への移転も視野に検討する。
工業科単独校	①地域の企業等と連携したデュアルシステムの導入や、②新たなニーズ（デジタルものづくり、工業デザイン、アニメーション、防災・社会基盤など）への対応、③高等教育機関への進学も視野に入れた教育課程とする。	工業科単独校とその他の学校の工業科を対象に再構築する。 「工業科教育の魅力化・特色化」、「地域の担い手育成・確保」等の観点から、「複数キャンパス制」*の導入について検討する。
商業科単独校	社会の変化やニーズに柔軟に対応できるよう、グローバルな視点やデジタル活用スキルの育成など新たな学習内容を取り入れる。	これまでの商業科単独校で行われてきた教育を踏まえつつ、「学校の魅力化・特色化」、「学校規模の維持と部活動の活性化」等の観点から、その他の学科を併設した学校として再構築することを検討する。

* 実習施設の有効な活用を図る場合などに、一つの高校を複数のキャンパスで運営するもの

(3) 総合学科

- ・高等学校設置基準では「普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す学科」として位置付けられている。
- ・これを踏まえ、今後、「(1) 普通系学科」及び「(2) 職業系専門学科」の具体的な配置を考えていく中で、柔軟な教育課程の編成や円滑な学校運営などの観点から、より効果が期待できると考えられる場合に、「総合学科」として開設することとし、キャリア教育等を通して、自身の進路希望を明確にし、進路にあった学びを提供する。

4. 学校規模別の設置方針

一部修正 (㊦)

- ・「新時代HS」は、大規模校・中規模校・小規模校で構成する。
- ・それぞれの規模において、メリットを活かした学校づくりを進めるとともに、教育効果を高める学校運営を行う。

	大規模校	中規模校	小規模校
ねらい	多くの科目や部活動から選択が可能で、多様な考え方に接することにより、他者と協働して社会参画できる力を高める。	県内各エリアで、バリエーションに富んだ学校を県内にバランスよく配置し、生徒に多様な選択肢を提供する。	小規模校ならではの特色ある教育活動の展開や長期的なニーズ、通学時間の観点から、地域バランスにも配慮して設置する。
教育内容	スタンダード、未来創造【i】スポーツ、未来創造【ii】芸術で構成する。 職業系専門科目の一部も含め多様な選択科目※を開設する。	スタンダードを基本とし、職業系専門学科を含むそれ以外の教育内容とバリエーションに富んだ組み合わせとする。	スタンダードと「地域共創」などを組み合わせる。
学校規模等	1学年「480人規模」の学校を県内に1校設置する。	1学年「160人～280人規模」の学校をバランスよく配置する。	1学年「120人以下」の学校を設置する。
設置場所	県全域からの通学を考慮し、公共交通機関の利便性の高い富山市内の県有地（県立高校敷地など）を活用して整備する。	現在の高校施設を活用することを基本とする。	現在の高校施設を活用することを基本とする。
整備方法	「新築」又は、「既存施設の活用」を検討する。	必要に応じて現有の施設設備の改修等を行う。 既存施設の有効活用等の観点から、中規模校の機能分担（複数キャンパス制）についても検討を行う。	必要に応じて現有の施設設備の改修等を行う。

※ 大規模校における選択科目の例

< 共通教科 >

(国語)論理国語、文学国語、国語表現、古典探究
(地理歴史)地理探究、日本史探究、世界史探究
(公民)倫理、政治・経済
(理科)物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎
(芸術)音楽Ⅰ、美術Ⅰ、工芸Ⅰ、書道Ⅰ など

< 職業系専門科目等 >

(農業)農業と環境、草花、野菜
(家庭)生活産業基礎、フードデザイン、生活と福祉
(音楽)音楽概論、ソルフェージュ、声楽、器楽、作曲
(英語)総合英語Ⅰ～Ⅲ、ディベート・ディスカッションⅠ～Ⅱ

(商業)簿記、ビジネス基礎、ソフトウェア活用、プログラミング
(体育)スポーツ概論、スポーツⅠ～Ⅵ、スポーツ総合演習
(美術)美術概論、素描、構成、絵画、ビジュアルデザイン

など

一部修正 (ア)

- ◎学校配置の全体像イメージ（例）

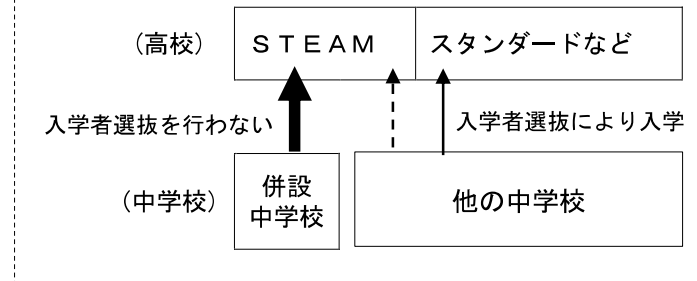
※学級数は、現在の標準である1学級40人として試算

6. 様々なタイプの学校・学科等

○中高一貫教育校

- ・「STEAM」について継続的かつ計画的に学ぶ中高一貫校1校の設置を目指す。
- ・高校の教育内容として「スタンダード」と「STEAM」などを組み合わせた「併設型」とする。
- ・設置場所は、県西部を基本として検討し、市町村教育委員会等の関係機関とも協議のうえ決定する。

○併設型中高一貫教育校のイメージ



○国際バカロレア認定校

- ・まずは、「グローバル」に重点を置く学校を設置し、その取組みを検証しながら、認定校のニーズや効果を整理し、導入の必要性等の議論を重ねる。
- ・設置する場合は、教育内容として「スタンダード」と「グローバル」などを組み合わせ、県東部での設置を基本とし、中高一貫教育校の検討も行う。

○外国人生徒に係る特別入学枠

- ・教育内容として「エンパワーメント」を取り入れ、入学後の日本語指導も含めた支援体制を整備する。
- ・幅広い進路選択が可能となるよう、教育内容として「スタンダード」や「未来創造」などと組み合わせる。
- ・県東部と県西部に各1校設置することを基本として検討する。

○全国募集

- ・南砺平高校での取組みの効果や課題を検証するとともに、全国募集の導入に意欲のある地元自治体と県外生徒の受入環境の整備について協議したうえで、「未来創造」、「地域共創」などを中心とした学びでの導入について検討する。

このページは、見やすさを考慮して空白ページとしています。

一部修正 (㊦)

7. 新時代HSの類型

- ・新時代HSは、「3. 教育内容」と「4. 学校規模別の設置方針」を組み合わせ、次の7つの類型を基本とする。
- ・各類型の学校像は、代表的な特徴などを示したものであり、今後の具体的な学校づくりの中で各校の魅力化・特色化を図る。

番号	類型名	目指すべき学校像	主たる教育内容		規模	様々なタイプの学校・学科等との親和性			
			スタンダード	その他		中高一貫	国際バカロレア	外国人特別枠	全国募集
1	プロGRESS ハイスクール	<u>○確かな学力と多様な進路選択</u> 普通教育を中心とした学習を通して、幅広い進路選択を可能とする。 ・生徒の学力に応じた学びを实践できる教育課程を編成 ・高等教育機関への進学に必要な学力や課題発見力・解決力を身に付けることができる教育課程を編成	○	—	中規模				
2	STEAM ハイスクール	<u>○社会課題解決につなげる探究と大学連携</u> 学術的な見識を高め、これからの社会を創造できる力を高める。 ・探究活動の授業時数を拡充し、研究手法の習得や教科横断的な学びの時間を確保 ・県内大学等の教授や学生の指導による大学での学びを先取り	○	STEAM	中規模	○			
3	グローバル ハイスクール	<u>○グローバルな視野・創造力とふるさとへの理解</u> グローバルな視点と創造力を持って、国内外で活躍できる力を高める。 ・英語力の向上、国際感覚の醸成を図る教育課程を編成 ・海外進学も含めた進路選択に対応できる教育課程を編成 ・ふるさととの理解を深め、郷土への愛着や誇りを醸成	○	グローバル	中規模	○	○		

4	総合選択 ハイスクール	<p><u>○生徒の主体性の確立と他者との協働</u> 主体的に選択する力、他者と協働して社会参画できる力をより高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な選択肢の中から、入学後の学習を通して興味関心を持った科目を選択できる教育課程を編成 スポーツや芸術などの専門性を高めたい生徒に対応した専門科目を開設 	○	<p>未来創造【i：スポーツ】 未来創造【ii：芸術】 〔職業系専門科目の一部を選択科目として開設〕</p>	大規模					
5	未来探求 ハイスクール	<p><u>○専門的な学びの追求と多様な価値観との出会い</u> 興味関心が異なる仲間と共に学ぶことで、自分も他者も尊重する姿勢を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定分野の専門科目を重点的に学ぶコースや学科を開設 異なるコースや学科による連携活動や生徒の交流を促進 柔軟な教育課程の編成による生徒の主体的な活動を充実（学校行事、ボランティア活動、部活動など） 外国人生徒に係る特別入学枠の設定や基礎学力の定着を図る学び直しを実施 	○	<p>次のいずれかの組合せ 未来創造【i：スポーツ】 【ii：芸術】 【iii：情報】 【iv：商業】 【v：家庭】 エンパワーメント 職業系専門学科</p>	中規模・小規模			○	○	
6	地域共創 ハイスクール	<p><u>○地域との協働とフィールドワーク</u> 地域の課題解決や魅力発信に貢献できる力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元の企業や自治体と連携した探究活動を推進 地域の特色ある産業、スポーツ、郷土芸能に関連する探究活動や部活動を充実 コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入 	○	地域共創	小規模				○	
7	実践 ハイスクール	<p><u>○高度化する技術への対応と実社会での活躍</u> 本県産業を支えていくために必要な知識・技術を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の企業等と連携したデュアルシステムの導入 新たなニーズや高等教育機関等への進学も視野に入れた教育課程の編成 	－	工業科などで構成する職業系専門学科	中規模					

Ⅲ. 「目指す姿」から考える「各期の姿」

一部修正 (㊦)

1. 各期の方向性

- ・令和 20 年度の「目指す姿」から、その 5 年前頃や 10 年前頃の「配置の姿」をバックカスティングで考えたうえで、3 期に分けて順次新時代 HS を設置することとし、それぞれの期において必要となる県立高校の再構築を行う。
- ・生徒の通学手段を考慮し、一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができるよう、エリアごとの募集定員の目安を踏まえ、様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置する。
- ・新時代 HS を計画的に開設できるよう、現在の全ての県立高校(全日制)を「移行準備校」に位置づけ、学科改編等の準備を進める。
- ・第 1 期の検討と並行し、第 2 期以降に設置する学校についても必要な検討を行う。また、令和 20 年度の「目指す姿」については、中学校卒業予定者数の今後の推移や通学等の要素を考慮し、エリアごとの学校の配置数などの全体像を示せるよう検討を行う。

第 1 期（令和 11 年度頃まで）

- ・速やかに対応すべき教育課題の解決を図る中規模校を次のとおり設置するとともに、大規模校の設置準備を進める。
 - ①グローバル化が進展する中で、外国の異なる文化や多様な価値観を尊重し、国際的な課題解決力を育むため、グローバル教育の充実を図る学校
 - ②科学技術の進展、各種分野における AI やデータサイエンスの活用機会の増大に対応できるよう情報教育の充実を図る学校
 - ③県外高校へ進学する生徒の増加、県立高校の志願倍率の低下などの状況を踏まえ、県立高校のさらなる魅力化を図るため、普通系学科の科目に加え、スポーツや職業系専門科目等から「学習内容を選択できる仕組み」がある学校
 - ④不登校生徒や外国人生徒の増加などを踏まえ、誰一人取り残さない教育の実現を図る学校

第 2 期（令和 15 年度頃まで）

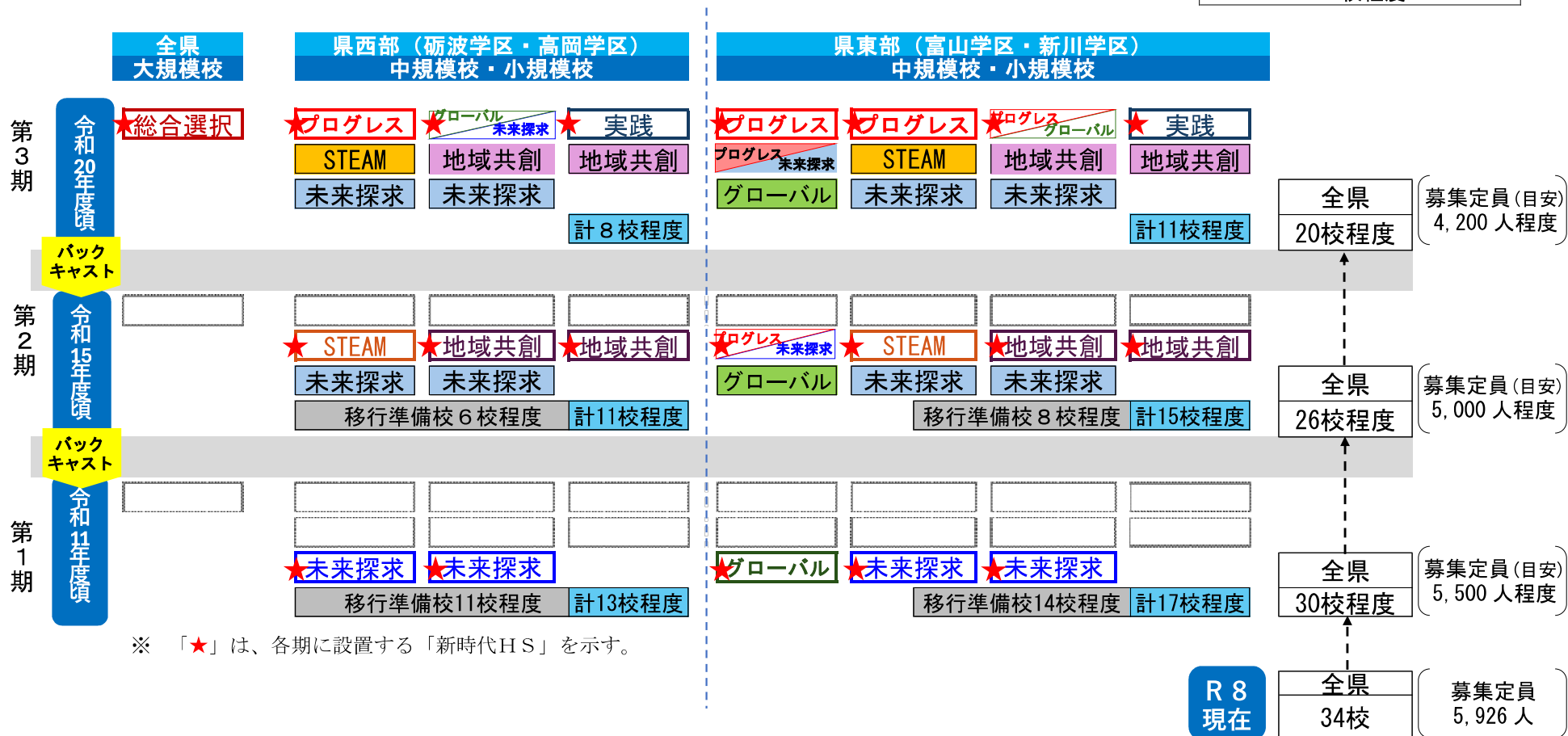
- ・中・小規模校の充実を図るとともに、大規模校の整備を進める。

第 3 期（令和 20 年度頃まで）

- ・「新時代とやまハイスクール構想」に基づいた全ての新時代 HS の設置を完成させる。

2. 各期の姿

類型名（学校規模）			設置時期			設置エリア	
			第1期	第2期	第3期	西部	東部
1	プログレスハイスクール	（中規模校）			○	1校	2～4校
2	STEAMハイスクール	（中規模校）		（中高は2期）	○	1校（中高）	1校
3	グローバルハイスクール	（中規模校）	①グローバル		○	0～1校	1～2校
4	総合選択ハイスクール	（大規模校）	設置準備	施設整備	○	1校	
5	未来探求ハイスクール	（中規模校・小規模校）	②情報 ③スポーツ等 ④エンパワーメント		○	2～3校	2～3校
6	地域共創ハイスクール	（小規模校）		○		2校	2校
7	実践ハイスクール	（中規模校）			○	1校	1校
						8校程度	11校程度
						20校程度	



(参考) 令和8年度の県立高校(全日制)の設置状況

追加(㊦)

全県:34校・153学級・5,926人【普63.7%、職36.3%】																			
県西部:15校・63学級・2,436人(41.1%)【普62.7%、職37.3%】									県東部:19校・90学級・3,490人(58.9%)【普64.5%、職35.5%】										
学校名	学科名	募集定員		備考	学校名	学科名	募集定員		備考	学校名	学科名	募集定員		備考					
		学級	定員				学級	定員				学級	定員						
砺波	普通	4	160		小杉	総合	4	160		中央農業	生物生産 園芸デザイン バイオ技術	3	60	作物科学コース 動物科学コース 園芸福祉コース 環境緑化コース 生物工学コース 食品加工コース 福祉コース					
砺波工業	機械	2	60		大門	普通	3	120	情報コース						入善	普通	3	120	自然科学コース 観光ビジネスコース
	電気	1	30		新湊	普通	3	120								農業	1	30	
	電子	1	30			商業	1	40								普通	3	120	帰国生徒5
南砺福野	普通	4	160		高岡	普通	4	160		桜井	土木	1	40						
	国際	1	30			理数科学	2	80	探究科学科		生活環境	1	40						
	農業環境	1	30			人文社会科学					魚津	普通	4	160					
	福祉	1	30		高岡工芸	機械	1	40		魚津工業	機械創造	3	90	電気エネルギーコース 情報システムコース I T コース 環境化学コース					
南砺平	普通	1	36	*全国募集6		電子機械	1	40			富山				電気情報				
石動	普通	3	120			電気	1	40							富山中	I T ・ 環境化学			
	商業	1	40			建築	1	40				普通	2			80			
高岡商業	高岡工芸	土木環境	1	40		土木工学コース 環境化学コース	富山中部	普通	4	160	探究科学科	滑川	普通	1		40			
		工芸	1	30				人文社会科学	2	80			商業	1	40				
		デザイン・絵画	1	40				富山北部	普通	3	120		体育コース約40	海洋	1	40			
		流通ビジネス	2	80		くすり・バイオ			2	80	雄山		総合	3	120				
	国際ビジネス	1	40		情報デザイン	1	40		普通	2		80							
	会計ビジネス	1	40		富山工業	機械工学	2	80		生活文化	1	40							
	情報ビジネス	1	40			電子機械工学	1	40		富山いづみ	総合	4	160						
伏木	国際交流	2	80	中国語コース 韓国語コース ロシア語コース		富山商業	金属工学	1		40	富山いづみ	看護	1	40					
高岡南 福岡	普通	4	160	人文科学コース			電気工学	2		80		富山東	普通	6	240	自然科学コース約40			
	普通	3	120	英語コース	建築工学		1	40	富山南	普通			5	200	国際コース				
氷見	普通	2	80		富山商業		土木工学	1		40			呉羽	普通	6	230	音楽コース約30		
	農業科学	1	40			流通ビジネス	2	80		富山いづみ	ビジネスマネジメント			1	40				
	海洋科学					会計ビジネス	1	40			富山いづみ	情報ビジネス		2	80				
ビジネス	1	40		総合		4	160												
生活福祉	1	40																	

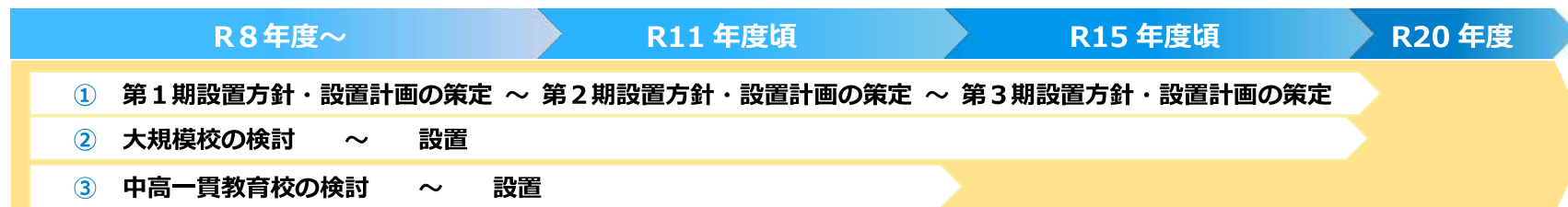
※普職割合は、総合学科を除く比率

Ⅳ. 今後の進め方

追加 (イウ)

1. 項目ごとの流れ

(1) 新時代HSの設置



① 各期の「設置方針」・「設置計画」の策定

各期において、まず、新時代HSの教育内容や、設置に必要な再構築(対象校)等を示す「設置方針」を定め、その後、より具体的な検討を行い、学校規模、学科構成、各学科の主な教育内容等を示す「設置計画」を策定し、設置に向けた準備を進める。

② 大規模校の設置

大規模校の設置方針等を検討し、設置に向けた準備を進める。

③ 中高一貫教育校の設置

市町村教育委員会等の関係機関とも協議のうえ、設置方針等を検討し、設置に向けた準備を進める。

(2) 入試制度の見直し



① 入試制度の検討

社会の変化や他都道府県の実況等を踏まえ、中学校・高校等の関係者と協議しながら検討し、選抜方法等について必要な見直しを行う。

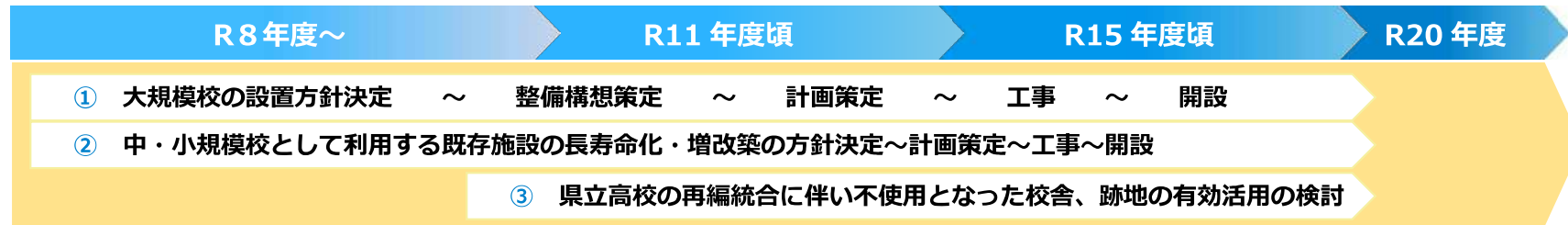
② 外国人特別入学校の選抜方法の検討

第1期での開設を目指す「外国人生徒に係る特別入学校」における選抜方法について研究し、中学校・高校等の関係者と協議しながら検討を進める。

③ 中高一貫教育校の選抜方法の研究・検討

第2期での開設を目指す「中高一貫教育校」に係る選抜方法について研究し、**小学校・**中学校・高校等の関係者と協議しながら検討を進める。

(3) 施設・設備等の整備



①大規模校の整備構想等

令和8年度に検討予定の「大規模校の設置方針(学科構成、設置場所など)」を踏まえ、大規模校の設置に伴い必要となる施設や設備の整備構想を決定のうえ、計画策定、工事を着実に進め、第3期に大規模校を開設する。

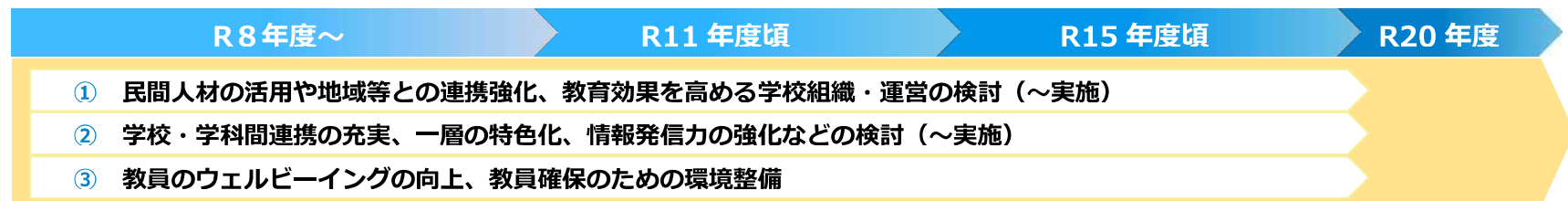
②中規模校・小規模校の整備構想等

中規模校・小規模校については、第1期校から第3期校のそれぞれの設置方針等に基づき、校舎に関する検討を行うこととし、既存施設の長寿命化や増改築など必要となる施設や設備等の整備構想を決定のうえ、計画策定、工事を着実に進めて開設する。

③不使用校舎・跡地の有効活用

県立高校の再編統合により不使用となる校舎や跡地の有効活用についても検討する。

(4) 活力ある学校・組織づくり



① 活力ある新時代HSの実現に向け、現場教員の意見を聞きながら、民間人材の活用や地域の企業・高等教育機関など外部との連携強化に加え、教育効果を高める学校の組織や運営について検討し、可能なものから速やかに実施する。



② 県立高校同士や学科間の連携活動を充実するとともに、県内中学校とのつながりを強化し、教育課程や部活動の魅力向上など、県立高校の一層の特色化を図り、情報の発信力を高める。

③ 生徒によりよい教育を提供できるよう、教員の「働きやすさ」と「働きがい」を両立させ、ウェルビーイングの向上を図るとともに、教員確保のための環境整備を推進する。

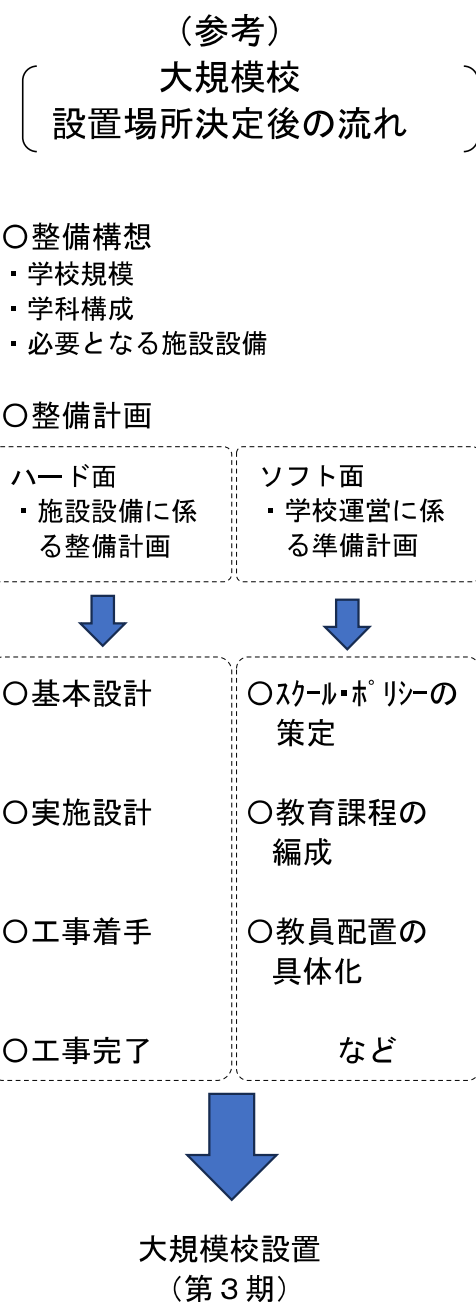
(5) その他

- ① 「定時制・通信制高校」については、多様な生徒に対応した教育を確保する観点から、現在の配置を維持することを基本としつつ、今後の新時代HSの検討の中で、その位置付けや全日制高校との関係について整理しながら、必要な検討を進める。
- ② 高校時点での県外進学が増加傾向にある中、建学の精神のもとに特色ある教育を実践される「私立高校」と協調を図りながら、共に、より柔軟な発想で創意工夫を凝らし、富山県の高校教育の魅力を一層高めていく。
- ③ 高校再構築に伴う、現在の同窓会の取扱いについては、各期の設置方針公表後に関係者の意見をお聞きする。

2. 第1期校等の流れ

	全体	第1期校	第2期以降に設置する学校
R6年度	○「新時代とやまハイスクール構想」基本方針の策定		
R7年度	○「新時代とやまハイスクール構想」実施方針の策定 <ul style="list-style-type: none"> ・令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿 ・「目指す姿」から考える「各期の姿」 ・今後の進め方 		
R8年度		<p>○第1期設置方針</p> <div> <p>《検討》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期校（グローバルハイスクール、未来探求ハイスクール）として設置する高校における教育内容（外国人生徒に係る特別入学枠含む） <div> <p>学校ごとに検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ①どのような生徒の育成を目指すか ②どのような教育内容が必要か </div> </div> <p>・第1期校の設置に必要な再構築</p> <div> <p>現在の各高校の特色や教育内容に着目し、第1期校を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ①どのように再構築するか ②どこに設置するか </div> <div>  <p>設置方針策定（総合教育会議） （令和8年度前半）</p> </div>	<p>○大規模校の設置場所等</p> <div> <p>《検討》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置場所 ・整備手法 <p>（現在の県立高校の敷地や施設の状況も踏まえながら検討）</p> </div> <p>○令和20年度の「目指す姿」</p> <div> <p>《検討》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリアごとの学校配置数など </div> <div>  <p>大規模校の設置場所決定 令和20年度の全体像</p> </div>

	全体	第 1 期校
R 8 年度	<p>○入試制度の見直し</p> <p>○施設・設備等の整備</p> <p>○活力ある学校・組織づくり</p> <p>○その他</p>	<p>○第 1 期設置計画</p> <div> <p>《検討》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校規模（学級数） ・学科構成 ・各学科の主な教育方針 ・活力ある学校・組織づくり <p>〔特色ある教育内容、外部との連携、学校行事、部活動 必要となる施設設備等〕</p> </div> <p>↓</p> <p>設置計画策定（総合教育会議） （令和 9 年度）</p> <p>○第 1 期校設置準備</p> <div> <div> <p>総合教育会議等</p> <p>《検討》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新高校の名称案 （設置条例にて規定） ・校歌、校章等の検討方法 ・対象となる移行準備校の 学習活動や学校行事、部 活動の充実に関すること </div> <div> <p>各学校</p> <p>《検討》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクール・ポリシー等 ・教育課程等 ・学校運営の組織等 ・制服 ・校歌、校章など </div> </div> <p>↓</p> <p>第 1 期校設置 （令和 11 年 4 月）</p>
		<p>○第 2 期校、第 3 期校の設置</p> <p>第 1 期校が設置された後に、構想の実施方針に定める方向性を基本としつつ、必要な修正を加えながら検討し、着実に設置する。</p>



「新時代とやまハイスクール構想」実施方針に関する検討経緯

- 総合教育会議（令和7年3月）
「新時代とやまハイスクール構想」基本方針策定
- 第1回 新時代とやまハイスクール構想検討会議（令和7年5月9日）
「新時代とやまハイスクール構想」基本方針について
今後の進め方について
大規模校の設置方針について（一部非公開）
- 第2回 新時代とやまハイスクール構想検討会議（令和7年6月3日）
大規模校（埼玉県立伊奈学園総合高等学校）における教育の現状について
大規模校の設置方針などについて（一部非公開）
- 第3回 新時代とやまハイスクール構想検討会議（令和7年7月3日）
大規模校の設置方針、令和20年度までに実現を目指す「県立高校全体の姿」について（一部非公開）
- 第4回 新時代とやまハイスクール構想検討会議（令和7年7月28日）
「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(素案)について（一部非公開）
- 総合教育会議（令和7年8月19日）
「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(素案)とりまとめ
- ・パブリックコメント（令和7年8月21日～令和7年9月12日）
- ・意見交換会（令和7年8月30日、31日）
- 第5回 新時代とやまハイスクール構想検討会議（令和7年10月14日）
「新時代とやまハイスクール構想」実施方針及び今後の進め方について
- 総合教育会議（令和7年10月28日）
「新時代とやまハイスクール構想」の進め方について
- ・職業系専門学科の将来像に関する意見聴取（令和7年10月～11月）
- 第6回 新時代とやまハイスクール構想検討会議（令和7年11月21日）
職業系専門学科のあり方について（一部非公開）
- 第7回 新時代とやまハイスクール構想検討会議（令和8年1月20日）
「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(案)について
- 総合教育会議（令和8年1月下旬）
「新時代とやまハイスクール構想」実施方針策定

職業系専門学科に関する意見聴取メンバー

○農業科

河上めぐみ (有)土遊野 代表取締役
下村 豪徳 (株)笑農和 代表取締役
友田 拓造 (株)Yokubari farm 代表取締役
豊川 和人 富山県農業協同組合中央会農村対策部 部長
福島 学 全国農業協同組合連合会富山県本部畜産部畜産課 専任課長
橋本 喜洋 富山県農業法人会 会長

県関係課（農林水産部農業経営課、農林水産部農業技術課）
県教育長・関係学校長（中央農業高等学校）

○工業科

伊東潤一郎 新時代とやまハイスクール構想検討会議 委員
(アイティオ(株) 代表取締役社長)
加藤 昭悦 (一社)富山県建設業協会 専務理事
高田 吉弘 (一社)富山県業連連合会 専務理事
寺島 雅峰 富山経済同友会教育を考える委員会 委員長
(株)寺島コンサルタント 代表取締役
水口 勝史 (一社)富山県機電工業会 会長 (立山科学(株)代表取締役社長)

県関係課（商工労働部商工企画課、土木部建設技術企画課）
県教育長・関係学校長（魚津工業高等学校、富山工業高等学校、高岡工芸高等学校、砺波工業高等学校）

○商業科

杉木 貴文 新時代とやまハイスクール構想検討会議 委員 ((株)Engames 代表取締役社長)
土屋 誠 前 富山経済同友会教育問題委員会 委員長 (日本海ガス(株) 取締役会長)
柄谷 義隆 富山県商業教育振興会 会長 ((株)ヤングドライ 代表取締役会長)
能作 千春 新時代とやまハイスクール構想検討会議 委員 ((株)能作 代表取締役社長)
山本 公生 商工会連合会 専務理事

県関係課（商工労働部経営支援課、教育委員会保健体育課）
県教育長・関係学校長（富山商業高等学校、高岡商業高等学校）

新時代とやまハイスクール構想検討会議設置要綱

(設置)

第1条 「新時代とやまハイスクール構想」基本方針（以下「基本方針」という。）に基づき、今後の県立高校づくりに関する検討を行うため、新時代とやまハイスクール構想検討会議（以下「検討会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討会議の基本方針に基づき、次の事項について検討する。

- (1) 各期に開設する新時代とやまハイスクールの方向性及び大規模校の設置方針に関すること
- (2) 第1期校の開設方針及びその開設に必要な再編統合に関すること
- (3) その他今後の県立高校づくりに必要な事項に関すること

(組織及び委員)

第3条 検討会議は、次に掲げる者を委員とする。

- (1) 富山県総合教育会議を構成する者
- (2) 学識経験者、経済界関係者、学校関係者及び保護者のうちから、知事が委嘱した者
- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、その前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第4条 検討会議に、会長1名、副会長1名を置く。

- 2 会長は、知事をもって充てる。
- 3 副会長は、会長が指名し、会長を補佐する。
- 4 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、副会長がその職務を代理する。

(会議)

第5条 検討会議は、知事が招集する。

- 2 検討会議の進行は、あらかじめ会長が指名した者が行う。
- 3 検討会議は、公開する。ただし、次の号のいずれかに該当する場合は、会長及び委員の協議により、会議の全部又は一部を公開しないことができる。
 - (1) 富山県情報公開条例(平成13年富山県条例第38号)第7条第5号に規定する非開示情報が含まれる事項に関して協議する場合
 - (2) 公開することにより、会議の公正が害されるおそれがあると認める場合
 - (3) その他公益上必要があると認められる場合
- 4 会長が、必要があると認めるときには、検討会議において関係者又は学識経験を有する者から意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 検討会議の庶務は、経営管理部学術振興課及び教育委員会教育みらい室県立高校改革推進課において処理する。

(細則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、検討会議の運営について必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和7年5月9日から施行する。

新時代とやまハイスクール構想検討会議委員名簿

(令和7年6月3日現在)

(委員17名、敬称略)

	氏 名	委 員 の 所 属 等	備考
会長	新田 八朗	富山県知事	設置要綱 第3条第1項 による委員
	廣島 伸一	富山県教育長	
	坪池 宏	富山県教育委員（教育長職務代理者）	
	大西 ゆかり	富山県教育委員	
	黒田 卓	富山県教育委員	
	牧田 和樹	富山県教育委員	
	松岡 理	富山県教育委員	設置要綱 第3条第2項 による委員
	伊東 潤一郎	アイティオ(株) 代表取締役社長	
	佐伯 真未	富山県PTA連合会 副会長	
	品川 祐一郎	トヨタモビリティ富山(株) 代表取締役社長	
	白江 日呂雄	元 富山県中学校長会 会長	
	杉木 貴文	(株)Engames 代表取締役社長	
	南部 初世	名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教授	
	能作 千春	(株)能作 代表取締役社長	
副会長	林 誠一	富山大学 学長特命補佐・客員教授	
	本江 孝一	元 富山県高等学校長協会 会長	
	松山 朋朗	富山県高等学校PTA連合会 顧問	

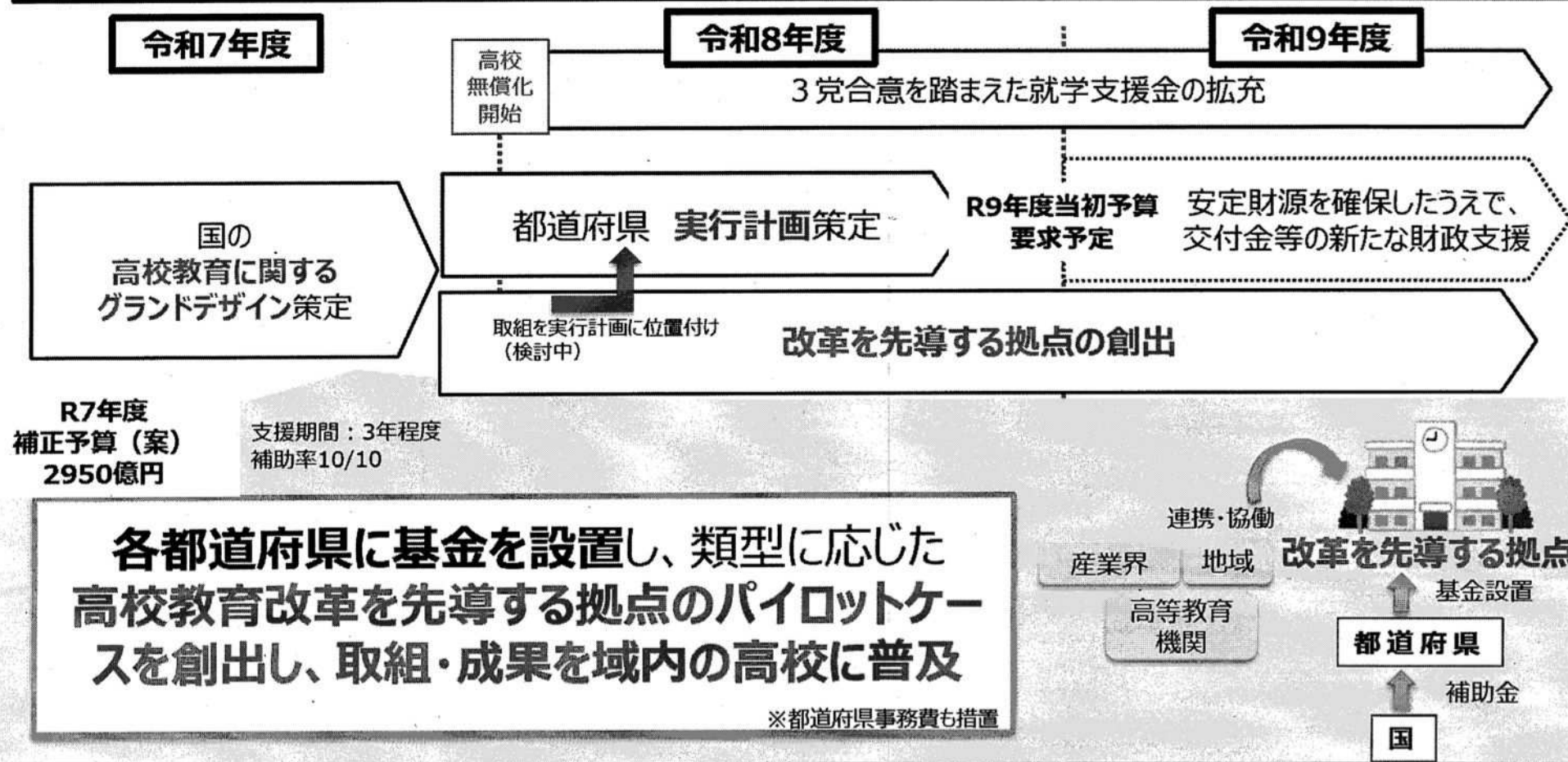
いわゆる高校無償化と一体となった高校教育改革

「強い経済」を実現する総合経済対策（令和7年11月21日 閣議決定） 抜粋

（6）公教育の再生・教育無償化への対応

（教育無償化への対応）

いわゆる高校無償化と併せて公立高校や専門高校等への支援の拡充を図るため、政党間の合意に基づき、安定財源を確保した上で、交付金等の新たな財政支援の仕組みを構築することを前提に、国から2025年度中に提示される「高校教育改革に関するグランドデザイン2040（仮称）」に沿った緊要性のある取組等について、都道府県に造成する基金等により先行的に支援する。



グランドデザイン骨子と3つの類型

<視点1> AIに代替されない能力や個性の伸長

- 義務教育の成果を更に発展させるとともに、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成。
- AIに代替されない能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力、他者と協働する力等）の育成、探究的な学びや実践的な学びへの学習観の転換、主体的に学び人生を切り拓く「生徒を主語にした」教育を推進。
- イノベーション創出に向けた「新たな知」を生み出すため、生徒の「好き」を育み、「得意」を伸ばす多様な経験を通じた、生徒一人一人の能力の伸長、主体性の涵養が必要。

<視点2> 我が国の社会・経済の発展を支える人材育成

- 2040年には、いわゆる文系人材の余剰、いわゆる理系人材の不足、地域の経済社会を支えるエッセンシャルワーカーの圧倒的不足が懸念。産業イノベーション人材育成の必要。
- グローバル化も進展する中、こうした人材への国際的な資質・能力の涵養や、世界で活躍できる人材の育成も重要。
- AI等によって社会全体が大きく変わり、従来の進路選択の見方が必ずしも妥当なくなりつつあるとの危機意識を共有し、進学希望者の理解、保護者や学校関係者の意識改革が必要。
- 新時代を担う人材を育成するための高校の特色化・魅力化が必要。

<視点3> 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- 少子化が加速する地域における高校教育の維持や学びのアクセスの確保が必要。
- 不登校児童生徒、特別な教育的支援や日本語指導を必要とする児童生徒の増加、通信制課程の生徒の大幅増加を踏まえ、高校のいずれの課程でも柔軟で質の高い学びの選択肢の保障が必要。

3つの類型に 共通する観点

アドバンスト・エッセンシャル
ワーカー等育成支援

理数系人材育成支援

多様な学習ニーズに対応した
教育機会の確保

放課後等を活用し、学校と地域の連
携による学力向上・学習支援のための
取組等を実施

高等学校教育改革促進基金の創設 ～N-E.X.T. (ネクスト) ハイスクール※構想～

令和7年度補正予算額 (案)

2,955億円



※N-E.X.T. (ネクスト) ハイスクールとは、New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools の略である。

「強い経済」を実現する総合経済対策 (令和7年11月21日 閣議決定) 抜粋

第2章 「強い日本経済実現」に向けた具体的施策 第1節 生活の安全保障・物価高への対応 (6) 公教育の再生・教育無償化への対応 (教育無償化への対応)

いわゆる高校無償化と併せて公立高校や専門高校等への支援の拡充を図るため、政党間の合意に基づき、安定財源を確保した上で、交付金等の新たな財政支援の仕組みを構築することを前提に、国から2025年度中に提示される「高校教育改革に関するグランドデザイン2040(仮称)」に沿った**緊要性のある取組等について、都道府県に造成する基金等により先行的に支援する。**

課題

- 2040年には、産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップにより、**地域の経済社会を支えるエッセンシャルワーカーの圧倒的不足、いわゆる理系人材の不足が懸念**されるところであり、**産業イノベーション人材の育成が重要。**
- 少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化(2040年には高校1年生が約36%減少)。現状でも約64%の市区町村において公立高校の立地が0又は1であることなどを踏まえ、**地理的アクセスを踏まえた多様な学びの確保が重要。**

①産業イノベーション人材育成等に資する高等学校教育改革促進事業 令和7年度補正予算額(案) 2,950億円 支援期間:3年程度

各都道府県に基金を設置し、類型に応じた
高校教育改革を先導する拠点のパイロットケースを創出し、取組・成果を域内の高校に普及する。

事業内容

改革先導校の類型

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等 育成支援

- 地域産業や社会・生活基盤を支える分野において、新技術を活用し、生産性の向上・高付加価値化の実現が求められている。
- 技術革新のスピードが加速する時代に適した**課題解決能力の獲得に向け、探究的・実践的な学びの積み重ねや深まりのある学び**を実現する。

理数系人材育成支援

- 未来成長分野においては、理系高等教育への進学者の割合の増加、高等教育での実践的な教育が求められている。
- 先進的な新たな知を生み出す力を育成するため、**理数的素養を身に付けつつ、自ら問いを立て、解決する研究を行う高等教育を見据えた文理融合の学び**を実現する。

多様な学習ニーズに対応した 教育機会の確保

- 少子化への対応においては、生徒の地理的アクセスの確保を図ることに留意しつつ、多様な人間関係の中で得られる学びを踏まえれば、**一定の生徒数の規模を確保した学びを提供することが必要。**
- 人口減少地域に、魅力ある学びの選択肢を増やすため、**地域の教育資源を活かした学びや遠隔授業を活用した学びの提供**を実現する。

取組 内容例

学ぶ意欲のある高校生が、家庭の経済状況に左右されことなく、学習習慣の定着、学習時間の増加、学びへ向かう姿勢の確立ができるよう、放課後等を活用し、**学校と地域の連携による学力向上・学習支援のための取組**、探究活動の深化による**多様な進路に向けた支援**を行う。

- ・ 学科・コースの再編、学校設定科目の新設
- ・ 域内の教育環境向上に貢献する取組(遠隔授業、教員研修拠点等)
- ・ 高等教育機関・地域・産業界と連携、外部人材の登用
- ・ グローバル人材育成に向けた留学の派遣・受入に係る環境構築

②高等学校教育改革加速に係る伴走支援事業 令和7年度補正予算額(案) 5億円

改革先導拠点の着実な実施にあたり、都道府県の進捗の確認・評価を行うとともに、類型ごとに、ノウハウの共有・専門家による支援を行う。

対象

- ①都道府県
- ②民間

補助率 等

①10分の10

補助 対象経費

- ①改革先導拠点の創出に係る経費(人件費、旅費、謝金、設備・施設整備費等)
- ②高校教育改革加速に係る伴走経費(人件費、旅費、謝金、備品・消耗品費等)

事業スキーム

文部科学省

基金造成経費を交付

都道府県

※都道府県事務費も措置

(担当:初等中等教育局参事官(高等学校担当)付)

高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称） 骨子 ～2040 年に向けたN-E. X. T.（ネクスト）ハイスクール構想～

1. グランドデザインの背景

（社会状況の大きな変化「2040 年問題」）

- ・2040 年には、少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化。産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップ、理系人材の不足の可能性。
- ・高校生が学校で「自ら問いを立てる力」「他者と共に価値を作り出す力」等を身に付け、希望する大学等への進学や就職等をし、生涯を通じて幸福に暮らしていくことができるよう、以下3つの視点の下で高校改革に取り組むとともに、高校から大学・大学院に至るまでの一貫した教育改革により、強い経済や地域社会の基盤となる人材育成を実現。

＜視点1＞不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AI に代替されない能力や個性の伸長

＜視点2＞我が国の経済・社会の発展を支える人材育成

＜視点3＞一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- ・専門高校の機能強化・高度化、普通科改革を通じた特色化・魅力化、地理的アクセス・多様な学びの確保を通じた高校教育の転換により、高校が、未来の労働市場、地方経済、イノベーションを興す力を底上げする起点としての役割を果たし、高齢化や人口減少といった課題に直面している我が国が社会全体で課題を解決する構造へと変化を遂げ、持続的に発展する日本社会を実現。

2. 高校改革の方向性～2040 年に向けた高校の姿～

（1）＜視点1＞ AI に代替されない能力や個性の伸長

- ・義務教育の成果を更に発展させるとともに、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成。
- ・AI に代替されない能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力、他者と協働する力等）の育成、探究的な学びや実践的な学びへの学習観の転換、主体的に学び人生を切り拓く「生徒を主語にした」教育を推進。
- ・イノベーション創出に向けた「新たな知」を生み出すため、生徒の「好き」を育み、「得意」を伸ばす多様な経験を通じた、生徒一人一人の能力の伸長、主体性の涵養が必要。

（実現するための取組の方向性）

- ・個々の生徒の学習ニーズへの対応等に向けた教育課程の柔軟化（教科・科目の柔軟な組み合わせを含む。）やデジタル技術の活用。
- ・校長のリーダーシップの下でのスクール・ミッションやスクール・ポリシーに基づく学校運営や教育活動の具体化、生徒の学びの成果・課題の把握と教育活動の改善への反映、公表の仕組みの構築。
- ・高校入試における多様な背景を有する生徒の特性等の多面的評価。

- ・デジタル技術の活用等も含め高校までの学びの成果を適切に評価できる大学入試の検討や、主体的・自律的に学修するための環境構築、厳格な成績評価等による「出口における質保証」への改善を大学に促し、高校教育から大学教育までを通じた一貫した改革。

（2）＜視点2＞ 我が国の社会・経済の発展を支える人材育成

- ・2040 年には、いわゆる文系人材の余剰、いわゆる理系人材の不足、地域の経済社会を支えるエッセンシャルワーカーの圧倒的不足が懸念。産業イノベーション人材育成の必要。グローバル化も進展する中、こうした人材への国際的な資質・能力の涵養や、世界で活躍できる人材の育成も重要。
- ・AI 等によって社会全体が大きく変わり、従来の進路選択の見方が必ずしも妥当しなくなりつつあるとの危機意識を共有し、進学希望者の理解、保護者や学校関係者の意識改革が必要。
- ・新時代を担う人材を育成するための高校の特色化・魅力化が必要。

（実現するための取組の方向性）

- ・理数系やDX・AI に関する関心の向上、探究・文理横断・実践的な学び、Society5.0 に対応した STEAM 教育、専門高校における地域の産業界との連携等に向けた指導運営体制の充実。
- ・理数・デジタルや文系の素養、DX・AI を使いこなす情報活用能力を身に付けた上で、社会で活躍するロールモデルを生徒自身が感じながら学ぶことができる環境の構築。
- ・普通科に偏った学科構成の見直しや産業界の伴走支援による専門高校の機能強化・高度化等の取組と、大学教育における理工・デジタル系人材育成の強化等の取組を有機的に連携・連動。
- ・国内外の大学・高校等とも連携しながら、社会的課題の解決に向きあう学びや、留学生の派遣や受入れを通じたグローバル人材の育成。

（3）＜視点3＞ 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- ・少子化が加速する地域における高校教育の維持や学びのアクセスの確保が必要。
- ・不登校児童生徒、特別な教育的支援や日本語指導を必要とする児童生徒の増加、通信制課程の生徒の大幅増加を踏まえ、高校のいずれの課程でも柔軟で質の高い学びの選択肢の保障が必要。

（実現するための取組の方向性）

- ・全国どこにいても学びが保障されるよう、生徒の地理的アクセスの確保に留意しつつ一定規模の確保、小規模校を含む学校間連携や遠隔授業の推進。
- ・通信制高校の管理運営の適正化や教育の質の確保・向上。
- ・個々の生徒の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実、日本語指導が必要な生徒に対する指導体制の整備。

※視点1～3を踏まえ、例えば、いわゆる理系人材の育成や専門高校における人材育成等に関する目標設定を検討する。

¹ N-E. X. T.（ネクスト）ハイスクールとは、New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools の略である。

3. 高校教育の充実に向けた支援

(1) グランドデザインの中核となる高校支援

(基本認識)

- ・公立高校は、多様な背景を有する生徒の様々な学習ニーズ、地域が求める人材、学校の地理的状況などの観点から、地域における高校教育の普及や機会均等を図る重要な存在。
- ・高等学校等就学支援金制度の見直しによる専門高校を含む公立高校への影響を考慮し、公立高校への支援を拡充。

(実行計画の策定・実施及び支援方策)

- ・本グランドデザインを踏まえ、都道府県において「高等学校教育改革実行計画」（以下「実行計画」という。）を策定し、安定財源を確保した上で、令和9年度に新たに創設する「高等学校教育改革交付金（仮称）」（以下「交付金」という。）等により支援。
- ・実行計画の策定に当たっては、都道府県教育委員会が中心となることが想定されるが、都道府県知事等の首長や関係部局、地域の関係者や産業界と十分に連携・協働。総合教育会議等を活用し、幅広い意見等を聞いて策定。
- ・実行計画は、主として公立高校の取組を記載することを想定しているが、都道府県の判断により、私立高校の取組を記載することも可能。
- ・交付金の創設に先立ち、パイロットケースとして、産業イノベーション人材の育成に向け、アドバンスト・エッセンシャルワーカーを育成するための実践的で高度な学びや、理数系人材を育成するための文理融合・探究的な学び、地理的アクセスを踏まえた多様な学びを先導する高校を創設するため、都道府県に基金を設置し、改革を牽引。その際、国際的な資質・能力を有するグローバル人材の育成や、高校生の多様な学びを広く支援するため、学校と地域が連携した学力向上・学習支援や域内の高校への取組・成果の共有等にも取り組む。
- ・高等専門学校の新設（専門高校の高等専門学校への転換を含む。）は、国の「大学・高専機能強化支援事業（成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）」等の支援により促進。

(交付金の対象となる取組及び留意点等)

- ・交付金の対象となる取組は以下に示すものを基本とし、計画の具体化に当たっては、「2. 高校改革の方向性」における視点1～3を踏まえたものであることが前提。
 - ① 専門高校の機能強化・高度化（産業界の伴走支援を受けながら行う教育課程の刷新・開発、先端分野の専門的な指導等を通じた地域産業を支える人材育成の取組等）
 - ② 普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化（理数系教育、学際的・複合的な学問分野に即した学び等に重点を置くなど、学校の創意工夫に基づき、教育課程等の改革を行う取組等）
 - ③ 地理的アクセス・多様な学びの確保（学校規模・配置の適正化、学校間連携や遠隔授業の促進等）
※学校と地域が連携した学力向上・学習支援による高校生の学びの支援も対象。
- ・交付金の運用に当たっては、各都道府県が取り組む高校改革に係る進捗管理や評価・改善の状況を適切に把握し、定期的な評価・公表を実施することが必要。

(2) 高校教育における個人支援の拡充

(基本方針)

- ・いわゆる高校無償化の詳細な制度設計や、低所得層への高校生等奨学給付金の拡充については、「経済財政運営と改革の基本方針2025」（令和7年6月13日閣議決定）や、「三党合意に基づく令和8年度以降の高校教育等の振興方策について」（令和7年10月29日）を踏まえ、その具体化を検討。

(支給方法の取扱い)

- ・高等学校等就学支援金や高校生等奨学給付金の申請手続について、地方分権提案等を踏まえて申請手続の更なるデジタル化を検討し、手続の簡素化による負担を軽減。
- ・いわゆる高校無償化については、国民の様々な意見や新たな制度の実施状況等の分析等を踏まえて、3年以内の期間に十分な検証を行った上で、必要な制度の見直しを実施。